

奈良市まちづくり市民会議（第4回）概要記録

■日 時： 平成21年12月18日（金）午後7時00分～午後9時00分

■場 所： 奈良市役所 中央棟6階 正庁

■プログラム：

1. 開会
2. 市民会議からの提案書について（事務局説明）
3. グループワーク（分科会ごと）『奈良市のテーマ別将来都市像づくり（2）』
4. 各分科会の中間発表
5. 閉会

■会議資料：

- ①奈良市まちづくり市民会議 提案書の構成（案）
- ②テーマ別将来像記入用紙
- ③奈良市まちづくり市民会議（第4回）のふりかえり
- ④参考資料
 - ・分科会別魅力と悩み
 - ・奈良市の計画一覧（分野ごと）・その他資料
 - ・奈良市ホームページの紹介

※①～④は受付時に配布

■出席者：

【市民公募委員】38名（欠席14名）

赤尾 隆、阿部 智子、上野 登統、榎本 正範、岡本 胤継、奥村 麻希子、北 良夫、
北浦 由香、北野 剛人、木村 宥子、熊野 磯一、笹部 和男、佐藤 正幸、サマン ペレラ、
澤崎 嘉造、四反田 喬典、新堂 順規、高松 典正、多田 充朗、田中 保夫、谷 幸三、中川 徹、
中西 輝、橋本 光男、長谷川 庸司、畑中 忠司、濱 朝子、濱 恵介、春田 稔、本間 香貴、
松永 洋介、松森 重博、宮本 郁江、村田 勝彦、森口 哲也、山本 素世、山本 善徳、
吉田 俊夫

【事務局】6名（企画政策課 課長 吉村 武富、主幹 田中 利也、主幹 奥田 喜司、
主任 木村 和弘、引野 あずみ、山岸 公彦）

【ファシリテーター】6名（山崎 亮、西上 ありさ、醍醐 孝典、
六本木 晃夫、岡田 実成、桐山 法子）

■傍聴者：0名



■会議の概要：

1. 開会

司会（企画政策課 吉村）より説明。

○委員の出欠について：開催時点では、委員 52 名中 34 名が出席。

○各分科会のグループワークへの市職員の参加について：

委員の皆様から賛否両論の様々な意見（「職員も議論に参加する。」、「聞き役または情報提供者としてテーブルに加わる。」、「市民のまちづくり会議なので職員が入ることは避けてほしい。」、「職員が入ると自由な発言ができない。」）をいただいたこともあり、グループワークに参加することは今回控えさせていただきたい。

○資料コーナーの設置について：

情報提供の一環として、今回から会場後方に資料コーナーを設置した。本日、参考資料として、資料コーナーに設置している資料の一覧を配布しているので、自由にご覧いただきたい。

2. 市民会議からの提案書について（事務局説明）

市民会議からの提案書の構成について、事務局（企画政策課 奥田）がパワーポイントを用いて説明。

⇒ <会議資料：①奈良市まちづくり市民会議 提案書の構成（案）>参照。

【説明の概要】

○市民会議の報告が生かされる箇所：

市民会議全体で考えていただく「奈良市全体の将来像」と、各分科会で考えていただく「テーマ別将来像」は、それぞれ基本構想の「都市の将来像」と「基本方向」に生かされる。

○まちづくり市民会議の提案書の構成（案）：

（1）提案書の趣旨（前文）

提案書の趣旨や市民会議の概要を説明する箇所。事務局で文章の案を作成する予定である。

（2）テーマ別将来像

各分科会で考えていただく箇所。

「①タイトル（テーマ別将来像）」だけでなく、将来像を考えた背景やその理由などを説明する文章（②テーマ別将来像を考えた背景（現状と課題）、③このテーマに関して、私たちの考える奈良の将来像とは）も考え、まとめていただきたい。

（3）奈良市全体の将来像

会議全体で考えていただく箇所。

会議での話し合いにより、「②各分科会の考える奈良市全体の将来像」と「④私たちの考える奈良市全体の将来像」は決まる。

「①奈良市全体の将来像につながるキーワード」と「③全体での意見交換の内容」については、第7回会議終了後に事務局で整理し、第8回までに委員の皆様にご確認いただく予定である。

○提案書の構成（案）のうち、委員が考える部分：

・「（２）テーマ別将来像」

第３回会議から第６回会議前半にかけて、分科会で考えていただく内容である。本日は、前回までの話し合いを踏まえて、テーマ別将来像を検討してほしい。

本日の中間発表は現在の状況を他の分科会の方と共有するために行うので、「①タイトル（テーマ別将来像）」、「②テーマ別将来像を考えた背景（現状と課題）」、「③このテーマに関して、私たちの考える奈良の将来像とは」が揃っていても構わない。

また、検討の途中で他の分科会に確認したいことが出てきた場合には、各分科会の中間発表の際に設ける質疑応答時間に質問してほしい。

なお、提案書の構成（案）に沿って、これまでの議論を整理していただくため、記入用紙を用意した。ご記入いただいた内容は事務局でとりまとめ、第５回の会議資料とする。

・「（３）奈良市全体の将来像」

第６回会議後半から第７回会議にかけて考えていただく内容である。

第６回の最後に、将来像の参考となる資料を事務局から紹介するので、第７回までに各自で奈良市全体の将来都市像を考えていただきたい。それらをもとに、第７回に分科会ごとで奈良市全体の将来像を考え、発表していただく。

そのうえで、委員の皆様の意見交換により「市民会議として考える奈良市全体の将来像」を選んでいただきたい。一つにまとまらない可能性もあるが、事務局としては、複数のままご提案いただいてもよいと考えている。

3. グループワーク（分科会ごと）『奈良市のテーマ別将来都市像づくり（２）』

【グループワーク】

・前回の話し合いや、参考資料「分科会別魅力と悩み」を踏まえながら、テーマごとの「将来都市像」やその「背景・必要性」、他の分科会に確認したいことについて話し合い。グループファシリテーターが、話し合いの概要を模造紙に整理。

⇒ <グループワークの記録>参照。

4. 各分科会の中間発表

ファシリテーター（西上）が進行。

○各分科会の発表：５分間。

（４分経過時にベル１回、５分経過時（発表終了時）にベル２回で合図。）

○各分科会への質疑応答：５分間。（５分経過時にベル１回で合図。）

<各分科会の発表及び質疑応答の概要>

【凡例】発表者（発表者の分科会に所属する委員を含む）の意見 その他の委員の意見

第１分科会発表

メンバー６名のうち、本日は３名しか出席していなかったため、残念ながら分科会全体の意見を整理することはできませんでした。前回に出た意見も含めてまとめたの

で、簡単に発表させていただきたいと思います。

私たちは奈良で生まれ育ち、あるいは他府県から本市に移り住んできました。奈良市のすばらしい点を、次世代に残し続けたいと考えています。各論では、「少子高齢化」、「平和のまち奈良」が非常に大きなテーマとなっており、「日本のはじまりの土地である」ということで、「平和のまち奈良」、「子育てしやすいまち」、「一生働けるまち」、「高齢者が生活しやすいまち」、「企業誘致」など、様々な項目があがっています。私たちがここで一生働き続けることができたり、高齢者になっても生活しやすいまちづくりを進めていくことが大切ということまで話し合ってきています。しかし、タイトルや将来像は、現在のところ確定していません。

現段階では、私たちが住んでいる奈良市は「快適で魅力あるまち」、つまり「安全、安心でかつ安らぐまち」並びに「若い世代が住みたいと思えるようなまち」になれば良いと思います。そのために、我々はいつまでも行政に頼るのではなく、NPOやボランティアなどの形で行政と協働するとともに、行政は税金の使いすぎをやめ、不要な事業を廃止する必要があると思います。また、次世代を担う若い世代に、奈良市に住んでもらえるよう、持ち家の固定資産税軽減や、家賃補助を行ったり、多くの人が観光にやってくるようなまちづくりを進めていただきたいと思います。

TF（西上）補足：
「生きやすいまちとは何か」ということを、「平和とは何か」、「安全安心とは何か」、「平等であることとは何か」、「小さな行政とは何か」などの言葉の根底にあるものについて話し合いました。

第1分科会への質疑、応答

（特になし）

第2分科会発表

奈良市の魅力は「歴史」と「自然」だと思います。「歴史」については、数々の文化財、特にすばらしい世界遺産があります。また春日原始林など自然も豊かです。

今後は、これらまちの魅力を積極的にPRし、また保全も図っていかねばなりません。なかには時間が経つにつれ無くなるものもあるので、この10年間にできるものから、早急に守っていかねばならないと思います。

そのためには、特に子どもたちや市民にも重要性を伝えていかねばならないと思います。このような取り組みのうえで、観光にも活用されていくことが望ましいと思います。

観光では、これらの資源を、単に多くの人に来てもらうための金儲けとしてのみ利用するのではなく、保全もしながら、皆さんに奈良の魅力に触れてもらいたいというのが、我々の考え方です。

第2分科会への質疑、応答

- ・委 具体的にどのような意見が出たのですか。
- ・発 「歴史」や「自然」だけではなく、人の「もてなしの心」も大切にしていかなければならないという意見がありました。もう1つは市民だけが感じる魅力だけではなく、専門家の意見も聞きながら魅力を再確認するとともに、市民や子どもたち、世界

中の人々にわかりやすく伝えることが大切という意見も出ました。なお、奈良市全体の将来都市像として、「安全・安心・快適、歩いて楽しめるまち、奈良」という提案もありました。

第3分科会発表

「活気あるまち」をつくるためには、やはり産業を興していかなければならないと思います。奈良には様々な産業がありますが、やはり観光産業が最も重要だと思います。そこで我々は、「観光産業をいかに本物にしていくか」について考えていきたいと思いました。

観光については、今まで行政においても検討され続けてこられたと思います。しかし、我々の分科会では、「なかなか良い取り組みにまでつながっていない」という結論になりました。それは、シナリオや小説のごとく「～あってほしい」、「～すればどうだろうか」といった計画（PLAN）づくりで終わっているからだと思います。

「PDCA（PLAN DO CHECK ACTION）」というように、誰が行動を起こし、結果はどんなだったのか、次にどのように取り組もうと考えているのかが、我々には見えません。

観光産業を成功させるためには、収益を得るために、世界中の多くの人々が奈良に憧れをもって訪れるような仕組みを、ビジネスモデルとして作らなければなりません。非常に残念なことです。行政には、そのようなビジネスモデルを作ることができる人材がいらっしゃらないと思います。そのような人材がいらっしゃらないならば、プロ野球のように外部から来てもらってはいかがでしょうか。

奈良市は、県庁から車で5分も走れば田畑の広がる地域に行くことができるような、小さなまちです。他府県がうらやむような神社仏閣や遺産、また鹿などもあります。このように他にないものをしっかりと活用し、システム化してビジネスモデルを作っていければよいと思います。

例えば、奈良市内の全ての寺を拝観できたり、バスに自由に乗れたり、ガイドに話を聞くことができたり、鹿せんべいを無料でいただけるようなゴールドカードや、寺で修行ができ、修行認定証がもらえるようなシルバーカードを発行するといった取り組みを行えば、奈良市に日帰りで訪れる観光客が多いといった現状から、リピーターが増えたり、ディズニーランドや旭山動物園のように、皆がわざわざ足を運んでくれるような成功事例に結びつくと思います。

このような視点で今後、提案書の形にまとめあげたいと思います。

第3分科会への質疑、応答

・**委**「観光」は2つの分科会、「都市計画」は3つの分科会のキーワードに含まれています。第3分科会は観光の産業化をテーマとされていますが、第2分科会でも「観光」や「都市計画」がキーワードとなっています。

第2分科会では、世界遺産を中心にバッファゾーンも含めて、「金儲け」という視点ではなく、「もてなしの心」、「世界の中の奈良」という大きな視点をもって観光に取り組む必要があると考えています。また、私の個人的な意見ですが、観光行政というのは、奈良市の観光経済担当課や観光協会などを一元化し、観光の捉え方をもう少し詰める必要があると思います。

- ・**発**確かに、交通も含め、奈良の観光をひとまとめにして取り組む必要があると思います。観光協会がどのような取り組みをしても、実際に成果が見えてきません。頑張った結果がしっかりと見えるような、PDCA（PLAN DO CHECK ACTION）を行っていくことができる組織、例えば「奈良観光株式会社」といったような組織が必要だと思います。そのためにはプロの手も必要だと思います。

また、奈良市全体をひとまとめにして売り込むためには、特定の寺だけが素晴らしいのではなく、奈良市全体の魅力、それは単に多くの人を訪れるということではなく、「静かであること」や「自然がある」という奈良の魅力を生かして、第2分科会で話されたような内容を踏まえたうえで産業化にも取り組むべきだと考えます。産業は今ある財産を切り売りするようなものではなくて、それを正しく守って、正しく知らせていく、それが経済にもつながるのではないのでしょうか。

- ・**発**奈良に人、特に若者が集まってくるとどうすればよいかについても我々は議論しましたが、様々な仕掛けをつくるとともに、根本にあるまちづくりに取り組んだり、例えば「工芸タウン」、「市民がつくる美術工芸大学」といった取り組みも行えればよいといった意見も出ました。

第4分科会発表

今回は「地域コミュニティ」と「子ども」が、本分科会のテーマ「人をつくるまちづくり」の大きな柱になると考えました。

そのなかで今気になっていること、背景・課題になっていることとして、「少子高齢化による問題」、「知り合う場がない」、「世代間がつながる場がない」、「子育て世代が参加していない」などの意見があがりました。

また、手段として、「相互扶助」、「空間・時間・仲間（3つの間）」といったキーワードが提案されました。

特に「子ども」については、地域や学校を通じて様々なことを伝えていくことが、「地域コミュニティ」については、参加しやすい機運・雰囲気醸成していくことが大切だという意見があがりました。

最後に、「きっかけ・機会がたくさんあるまち」をつくるために、「まずは“足元”（ご近所）から」、「市民全体（各自）が担い手になって」まちづくりに取り組んでいくことが大切だという意見を共有しました。

なお、本分科会では、実際にこのようなまちを実現するためには、我々が具体的に仕組みづくり、つまりアクションプランのような形まで考えて提案させていただいた方がよいのではないかという意見も出ています。

第4分科会への質疑、応答

（特になし）

第5分科会発表

「住みやすいまちづくり」というテーマについて、個別の施策、課題から、将来像の取りまとめに向け、抽象化して整理しました。

「誇り」というのは、住んで誇れるまちづくり、生まれてから死ぬまで、あるいは

次の世代まで満足して誇りをもって住み続けるまちを作っていかなければならないという内容です。

「緑」というのは、奈良市は県庁所在地でありながら、緑・自然に接近しているという良いところを持っていると思うので、これを生かしたまちづくりをつくっていかなければならないということです。

「特性をつなぐ、個性をつなぐ」は、地域ごとの特性を活かしながら、互いに交流を活発にすることで、様々な魅力を打ち出していこうという内容です。山間部の自然の豊かな地域と都市部との交流を促進することで、災害時のリスクヘッジやエコパークという側面、その他にも様々な可能性が秘められていると思います。

「持続可能」は、とても大きなテーマで、全ての分科会に通じるような、将来像を考えるうえでの大前提となる考え方だと思います。

「文化・人材」については、「鎌倉文士」という言葉がありますが、奈良市は志賀直哉が一時住んでいたりと、文芸の題材にもなっているのにも関わらず「奈良文士」という言葉がない、これは文化的な弱さであり、今後は文化的な発信もできるようなスタジオをつくっていけばよいのではないかという提案も出ています。

「安全・安心」は他の分科会にも出ているキーワードですが、子どもや高齢者をはじめ、皆にやさしい、歩いて暮らせるまちづくりや、エコなまちづくりを指します。

「住み継ぐ」は、先ほどの「誇り」にもつながる内容ですが、ゆりかごから墓場までずっと住むことができる社会、また景観に関連するのですが、親が建てた家を子どもの代になって壊して新築するのではなく、しっかり長くもつような建物を建て、住みつないでいくという内容を指します。

「落ち着き」は、多くの観光客がならまちに来るのは、一昔前の町並み・風景にあこがれているからであり、そこには単に懐かしいだけではなく、良いものが残されているからではないかといった内容です。

「まほろば、遺産」については、世界遺産は全人類から遺産・預かり物を我々に託されているということであって、これを守り抜くことが奈良市に課せられた重大な責任だと思います。世界遺産を守るために我々がすべきこと、徹底的なマイカー抑制や高い建築物の建設禁止、貧弱な観光インフラの改善などがあがっています。

第5分科会への質疑、応答

(特になし)

第6分科会発表

他の分科会では、大変夢のある事業提案が出てきていると思います。しかし資金が無ければ何もできません。そこで、本分科会では「財政再建」、つまり次世代への負担軽減に取り組むことが大切ではないかという意見が出ました。

一昔前は、地方公共団体は100%潰れることはありませんでしたが、現在は放漫財政を続けていけば地方公共団体が潰れてしまいかねない状態です。財政を再建させるためには、「無駄を排除」、「スクラップアンドビルド」、「事業仕分け」、「ゼロベース予算」に取り組む必要があるという意見が出ました。

そして、何よりも目標を設定することが大切ということで、10年で-30%という

目標を掲げました。1年に換算すればわずか-3%ですが、市債務は3,000億あるので、3%は90億と多額の金額となり、目標を達成するのは非常に困難だと思いましたが、目標として掲げさせていただきました。

また、そのためには税収アップが必要ですが、第3分科会で検討されている観光産業活性化により税収が確保されると思いますので、非常にありがたいと思います。

さらに、意見交換の機会、タウンミーティングは形式的になっていると思われ、もっとしっかりと意見交換できる機会を確保することが大切です。

そして、何といたっても行政改革が必要です。「効率化」「合理化」「簡素化」に努め、「小さな政府」にしていくことが大切です。

それと、政策評価をするためにも、一般市民が意見を投函できるような目安箱を設け、行政も一般市民からの意見に対して対応を回答できるようにすべきだと思います。

第6分科会への質疑、応答

- ・**委**第6分科会で検討していただきたいことの提案ですが、先ほどの発表では「意見交換の機会を確保すべき。」といった内容の意見がありました。現在は、選挙で選ばれた市議会議員が、市民の代表として意見交換をしていますが、それとは別に、市民会議のように一般の市民も意見交換をできるような機会や仕組みがあれば良いと思います。この市民会議のように、市民が集まってまちづくりについて考え話し合う機会が、今まではほとんど無かったと思うので、この市民会議がきっかけとなり、それを後継するような形で、市民同士が恒常的に意見交換できるような仕組みがあればよいと思います。
- ・**発**タウンミーティングには、自治会長や民生委員、商店街会長などが参加し、事前に質問を主催者に渡して、それ以外は質問をしてはいけないと聞きます。時間の制限もあるので、地域の団体の役職についている人はできる限り避け、くじで選ばれた5人から10人の一般市民が発言できるような形にすればよいと思います。
- ・**委**京都市では、一定の学習や意見交換の経験を積んできた市民が、地域のことを考えるという任務を与えられ、実地調査も行いながら、分野毎に政策提言をしていくという機関ができています。「京都市未来まちづくり100人委員会」という組織ですが、うまく機能していると聞きます。若者版の100人委員会も自主的に結成しようとする動きも出ているそうです。内容の充実したホームページもありますので、参考にさせていただきたいと思います。
- ・**発**奈良市でも同様の取り組みとして、「市民政策アドバイザー制度」というものがあります。このような機関の意見がどの程度行政の取り組みに生かされているかの違いはあるのかもしれませんが、同様のものは、既に奈良市でも取り組まれています。
- ・**委**私もタウンミーティングには数度参加したことがありますが、少なくとも我々の地域では、あらかじめ質問内容を決めておくことはなく、参加者が自由に質問できるようになっていました。ただし、タウンミーティングはまちづくり全体について意見交換をする場ですので、個別の問題等につながる質問はしないよう、制限していました。

【グループワーク】

- ・各分科会の中間発表、質疑応答が予定よりも早い時刻に終了したため、引き続き、分科会ごとに話し合いを行う。
- ・新たな質疑事項が出れば、付箋に書いて、質疑先となる分科会のテーブルに持っていくこととする。

5. 閉会

○会議閉会にあたって：

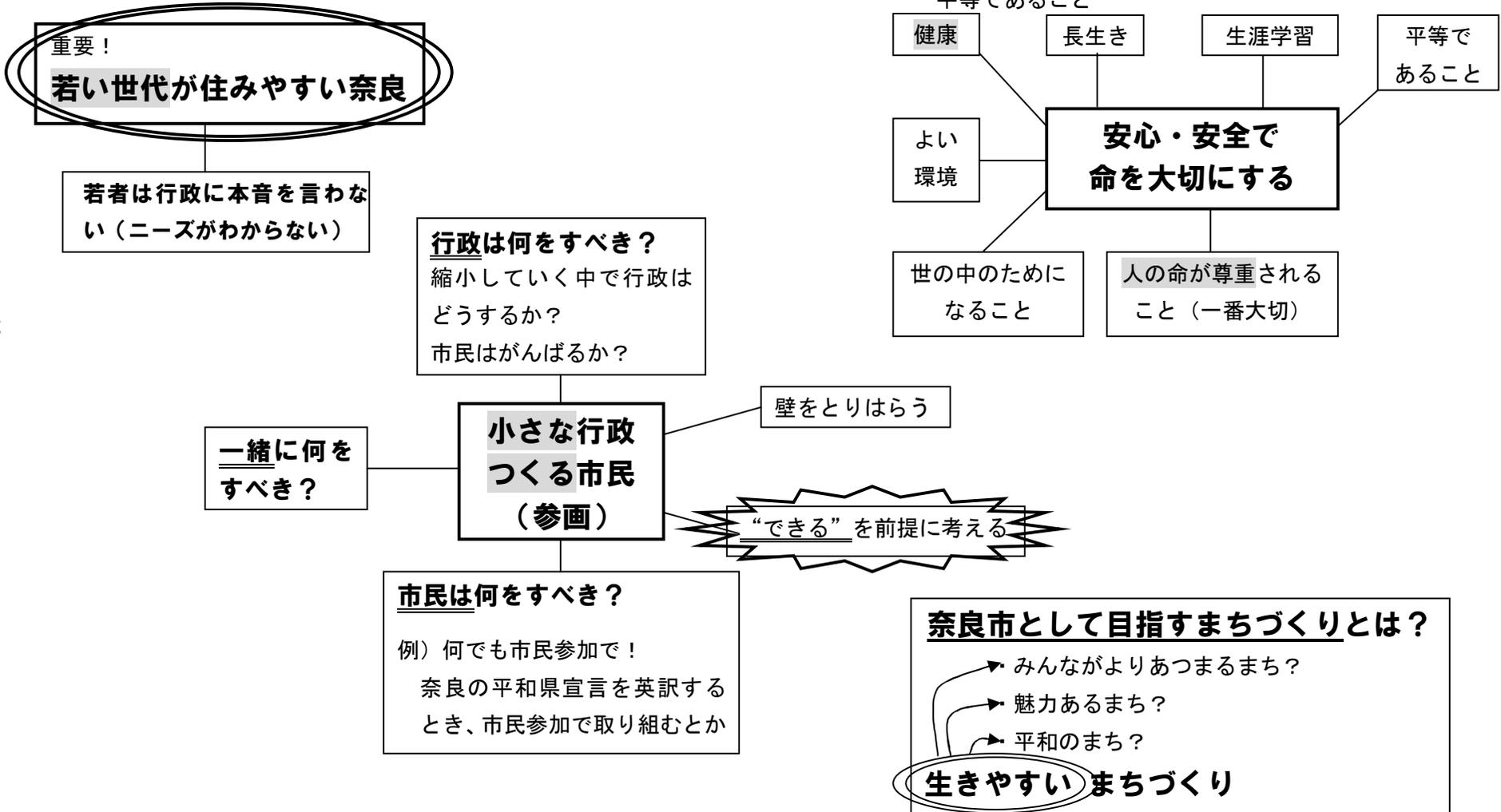
- ・司会(企画政策課 吉村)から、次回開催予定日、「テーマ別将来像記入用紙」の提出期限[平成22年1月8日(金)]及び「ふりかえりシート」の記入・提出期限[平成21年12月24日(木)]を連絡。

【次回開催予定】

- ・日時：平成22年1月15日(金) 午後7時～
- ・場所：奈良市役所 中央棟6階 正庁

第1分科会
生きやすいまちづくり

【参加者】委員 木村 宥子、熊野 磯一、本間 香貴 [井上 雅由、田中 浩、吉住 秀]
TF 西上 ありさ



第2分科会 魅力を生かすまちづくり

【参加者】**委員**上野 登統、榎本 正範、澤崎 嘉造、谷 幸三、中川 徹、橋本 光男、濱 朝子、春田 稔、山本 善徳 [小西 完治] **TF**桐山 法子

・まちづくりい
・まちのこし

(奈良市には) **魅力が充分にある!** (しかし) **“今のままじゃダメだ!”**

・世界に誇れる
・京都と違う!

**1300年の歴史
未来にも続く**
・1300年の歴史
“続いてきた”
・長い歴史 (はじめての都)
・文明 (聖武天皇=流れ・背景)
・未来像 (ずーっと未来)
約10年先ではない
・総合計画の基本構想
約10年の将来

さらに
ポイントを
絞るべき?

今ある魅力
・歴史・文化
自然
・今あるものを大切に!!
魅力の再確認が必要

伝えることが大切
紹介PR・啓発 (わかりやすく!)
・今ある魅力を生かして
わかりやすく伝える
・学校教育などを通して
子どもに伝える
(小さい頃から奈良の
魅力を理解してもらう)
・**本来の魅力を
しっかりと伝える**

・市民意識改革
・もっと市民に
理解してもらう
対策が必要

**保全
活用**

魅力を
理解すれば
につながる

**観光 (第3分科会) に
考えてほしい!**
・商業ベースだけではなく
奈良市の魅力 “歴史・自然”
に配慮して、観光に
つなげてほしい。

人の心も大切!
・おもてなしの心

保全も必要!!
・保全
・持続可能 (続く)
・魅力が無くならない
ように!
・例) 建物が無くなり、
駐車場が増加
↓
建物の形態等を規制する
だけでなく、景観建
物の保全、建設誘導する
ような仕組みづくりを

様々な人に魅力を
再確認・再発見してもらう
何が魅力か調べる!
・地域住民:
身近な地域の遺産
・専門家 (大学協力、行政内に専門
家を確保など):
古文書・古地図に
記された遺産
・外国人:
外国人の目から見た遺産

(魅力は)面!
・歩いて楽しめる
・各戸緑化
・緑のネットワーク
点スポット
↓
面ぐるみ

緑化
バッファ
ゾーン

奈良市全体将来都市像
・安全・安心・快適、
歩いて楽しめるまち、
奈良

市内の地域の違い
オールドタウン
ニュータウン

第3分科会 活気のあるまちづくり

【参加者】委員 赤尾 隆、阿部 智子、佐藤 正幸、新堂 順規、長谷川 庸司、畑中 忠司、松森 重博、吉田 俊夫 [友田 達郎、寮 美千子] T F 岡田 実成

個々の課題（重点）

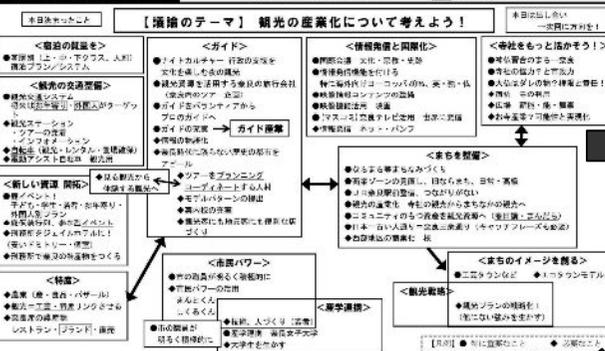
宿泊
・ 宿泊！
・ 夜・食・まち

国際化
・ 国際化
・ 発信
・ (会議)

ソフト
・ ガイド産業
ソフト ← 産業化の柱
・ ガイド
→ 奈良を知らせること

<第3回の分科会のまとめ>

第3分科会 活気のあるまちづくり



若者が来るには！
・ 若者を呼び込む
・ どうすれば
若者が.....

バラエティ
・ 選択肢が
少ない

まち
・ 線がまずい！ 美化
○ — ○
点 点
美しく！魅力

目標とすべきこと！

小さな問題より
→ ダイナミックな目標

モデル都市になる
・ エコタウン
モデルタウン
(工芸村など)

ビジネスモデル
・ ビジネスモデルがない

・ 寺社仏閣中心から
・ 行政中心から

・ 観光産業
なぜ金落ちないか
生産がない
↓ (寺社仏閣中心)
消費がない (宿泊・
夜のまち・特産なし)

**たくさん観光計画
はあるが.....**
・ アクションプランが
ない
→ 採算 CHECK がない

・ ビジネス
観光モデル
(体験) へ
・ 観光協会
奈良市から
↓
奈良観光(株)へ

市民とのかわり
・ 市民目線になっていない！
・ 甘えている！
・ 市民団体が支えに
ならなくては！
・ 市民大学

第4分科会 人をつくるまちづくり

【参加者】**委員** 岡本 胤継、奥村 麻希子、北 良夫、笹部 和男、高松 典正、宮本 郁江、森口 哲也、
山本 素世 [アダルシュ シャルマ、小島 道子] **TF** 醍醐 孝典

地域、コミュニティ、子ども

- ・きっかけ・機会がたくさんあるまち
- ・まずは“足元”から・・・・・・・・
- ・“まちづくり”のレベルは？単位自治会？
- ・市民全体（各自）が担い手に・・・・・・・・

背景

- ・歳入不足
- ・高齢化
- ・少子化
- ・知り合える「場」の必要性

（視点）キーワード

- ・気運、雰囲気醸成
- ・相互扶助
- ・市民が主体
- ・子どもに伝えることが大事
- ・3つの間
空間、時間、仲間

課題

- ・意識の変化
- ・世代間をつなぐものが欠けている
- ・若い人が声をかけあうチャンス・
きっかけがない
- ・人材の継続性
- ・子育て世代の参加

奈良市の中の
地域性の違い

子どもとは？
小学生？
中学生まで？
高校生？

支える仕組み

- ・条件整備
- ・仕組みづくり
- ・地域参画のメニューづくり
- ・人材（団体）育成
- ・育った人の活用のしくみ
- ・有償ボランティア
- ・今ある団体（NPO等）を育てる、
支える
- ・スポーツがきっかけに・・・・・・・・

学校

- ・現場の声が市に反映されない
- ・学校教育の議論
⇒持ち越し課題
- ・学校教育
↓
国が占める部分大きい

子育ての環境

- ・子育てしやすい仕組みづくり
- ・子育てについて
相談しやすい・助け合いできる関係

⇒ 分科会1？

制度的な部分は分科会1で

第5分科会 住みやすいまちづくり

【参加者】委員 北浦 由香、北野 剛人、サマン ペレラ、四反田 喬典、中西 輝、濱 恵介、松永 洋介
[田北 ますみ、反田 博俊] TF 山崎 亮

- コンパクトシティ
 - ・マイカー抑制／大規模SC規制
 - ・歩道の充実（歩いて暮らす）
 - ・自転車道の充実
 - ・LRT（路面電車）の活用
- 都市（エコタウン）・農村（エコビレッジ）交流
- エネルギー自給
- 景観
 - ・電柱地中化
 - ・看板規制
 - ・高層ビル規制
- エコパーク
 - ・エコツアー／エコパーク
- 火葬場

月ヶ瀬 つげ
柳生産朝市をま
ちの各自治会で

緑

- ・緑溢れる街路のまち
 - ・緑ゆたかな
- ↓
- 自然を壊さない
 - ・自然の一部としてのひと（市民）
→環境共生都市
 - 環境の一部を借りて
住みやすくした都市
(謙虚な態度で)

特性をつなぐ、個性をつなぐ

- ・つなぐ
 - ・都市内交流の活発化
- ↓
- 安全・安心の最大化
 - ・マチとムラの交流が活発
→災害にも強い
 - ・エリア分け
エリア毎の特性を強調・活かす
商業・住宅・農村・森林・観光地……

誇り（シビックプライド）

- ・300年後に“負の遺産”と
言われない開発
- ・孫の孫まで「奈良に生まれて
よかった!」と思えるまちを
人生を完結できるまち

まほろば 遺産

- ・世界遺産を守りぬく!
(全人類からの預かりもの)
- マイカーレス、景観
観光インフラ整備
(ロングステイを重視)
- ・あずかりものとしての奈良
- ・大和は国のまほろば
→具体化、エコでトップ
- ・本当の日本らしさを活かせるまち

持続可能

- ・持続可能なまち
エネルギーも
食料も
環境も
- ・安全・安心・平和
- ・都市化をダウンサイズできないか

地産地消で

都市軸として
条里制の復活を
めざす

おちつき

- ・なつかしい未来のあるまち奈良
- 本物は20世紀文明にない
- ・もう少し、昔に戻ってみる

住み継ぐ

- ・ゆりかご→墓場
(人の一生)
- 時間軸でとらえ直す
古代から未来へ
(奈良の存在)
- ・住み継ぐ家・まち
(長寿命な建物・歴史となるまち)

鹿せんべい

文化・人材

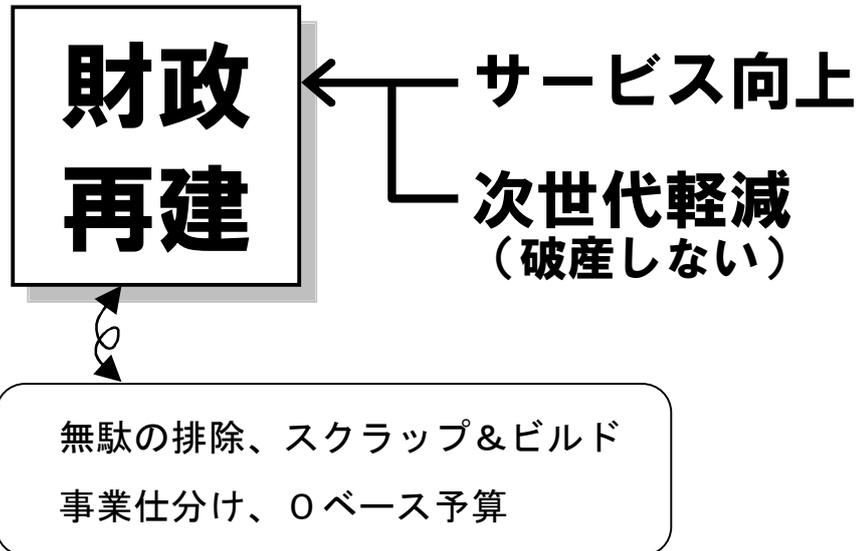
- ・鎌倉にヒントがある?
- ・文士が住める「まち」

安全・安心

- ・子どもも高齢者も歩いて楽
しい安全・安心なまち
- ・「住みやすい」=「便利」
が優先するのでは? ☆
- ・観光客は「住みやすさ」に
プラスか?? ☆
- ・安全・安心・快適・便利
- ・「エコ」は「快適・便利」
に反することもある??

第6分科会
市民と行政とのまちづくり

【参加者】委員 多田 充朗、田中 保夫、村田 勝彦
[植田 正博、武村 俊宏、元島 満義、
渡邊 新一] TF 六本木 晃夫



目標をつくる：10年で-30%に

- ・ 税込UP
- ・ 無駄の排除
- ・ 意見交換の機会確保

タウンミーティング

行政改革： 効率化
合理化 } → 小さい政府
簡素化

政策評価： 市民・有識者による ← 外部機関
← 市民の生活感覚 方法が課題
： 目安箱的なもの